



2014年6月号

今月のテーマは、
「南極観測隊の隊員服」
です。



今月は「南極観測隊の隊員服」を紹介するよ！
紹介してくれるのは、菊池 雅行（きくち まさゆき）さんです。

1次隊の防寒服は天然の毛皮や皮革素材が使われていました。現行の防寒着は軽くて通気性のよい高機能繊維で作られています。また、着ている人が日本の観測隊員であることを表すよう、デザインに工夫が凝らされています。日本の伝統色・藍色を基調とすることで日本の観測隊であることを主張し、また、襟部分を高くすることでフォーマルな印象を狙い、着ている人が労務よりもむしろ観測に携わる人物であることを主張しています。さらに観測隊員特有の動きである「しゃがむ」動作を行いやすくする形状も特徴です。開発に当たっては、観測隊経験者、被服デザインの研究者、そして繊維企業の方々が採算度外視の熱意で取り組んで下さいました。



菊池さんはどんなお仕事をしているのですか？

極地や宇宙のように人の分け入れない厳しい環境で使用する、様々な観測装置の制御部分の研究開発を行っています。これまでには、月からオーロラを観測する装置、気球を使って南極上空の空気を採取する装置、国際宇宙ステーションから雷を観測する装置、ウナギの遊泳位置を把握する装置、などの制御部分を担当してきました。